

ダマヌールのコミック「時へのチェックメイト」より (16)

人類の神殿で評議会が開かれます…

①

実際に…
親愛なる友人たち、高潔なるマスターの皆さん、評議会があなた方をここに招集したのは、この構造物が第3グレード、金のレベルのTELに格付けされるための特性を備えているかどうか検証するためです。

第3グレード、金のレベルのTELだ!? 地球!? あなたは確信があってそう言っておられるのか?

もちろん。あなた方はすでに部屋の複雑さや美しさを認めましたね。あらゆる小さな部分にもなんと多くの感情が込められているのを感じてください。

はい、私は専心と注意を感じる。

はい、私は大笑いや、友情も感じる。

そして自分の限界を越えて常によりよくやりたいという意欲

うーむ、つねに完全な意識があるわけではない…だが戦身と彼ら自身を越えていく何かを作りたいという欲求を感じる。

…はい、この神殿はひとつの共通の夢で振動していて、その夢はまったく異なる個人個人のフリークエンスを結びつける。たくさんの人々がそのために働いたにちがいない!

②

エンキドゥー、あなたの言うとおりだ：この作品はあなたが示唆したとおり格付けしてよいだろう。この人間のエネルギーの錬金術によって神のエネルギーへと向かう橋を築くことができる。

その橋の上を新たな贈り物や知識が人類すべてに向かって通っていくだろう。

ただ、ご承知のとおり、状況は非常に危殆的だ。明日にはこの神殿はもはや存在できないかもしれない。

そのとおり。高潔なる兄弟たちよ、評議会がこの時間新しい交流をつくることを認めたと、このポイントで集まるかもしれない我々にはわかっていて、今から後戻りすることはできない。

でもよくわかってるように、銀河法により我々は直接的に介入することはできないのだ!

そう、でも…啓発された選択ができるように。当周に何らかの夢の種をまくことはできるだろう。

よからう、この報酬は正当だ。だがダマヌール市民たちは彼らのあらゆる資源やエネルギーを分け続ける必要があるだろう。惑星の覚醒のための戦いは始まったばかり、そっと他の多くの人々が賢く合流するだろう。

それは…よし!

③

許可がおりたわ!

やっつと誰でも望む人に神殿を訪れてもらい、僕たちの理想を世界と共有することができるようになったぞ

そう、あとは罰金を払うだけさ…

神殿は守られた!

あーっ!!

…家東室に新しい駐車場…

エレベーターと、さらに数キロメートルのギャラリ…

…インターフォンと通信設備…

これで私たちまだ戻らなきゃいけない新しい強固に集まることできるわ!

そう、これは始まりにすぎない! シンクロナックが何と何と見えてみよう。

3…6…3…と5

[363:大きなモザイクのなかのあなたの位置、デザインは調和的です。]

とてもポジティブね!

待って。瞬間を表す4振り目は5だ。付け足すと、列を閉じる。

じゃあ他にもサプライズを準備する必要があるような気がするな!

④

なんても素敵なパーティー! 地球の人類が表すことができない熱意はいつも私のお気に入りだったわ。

そう、そしてこの人たちはたくさん熱意がほんとうに必要だ! この勝利は彼らにもっと強さを与える、戦いは激しさを増していく。

我々は再び始まりにいる。ゲームは再開した。そして地球全体を巻き込んでいくだろう。

そう、すべての人間が今やどのサイドに立つのかを選択しなければならぬ状態になっているだろう。

もしも、ハニー、ちよつと遅れるよ。夕食には家に戻れないと思う…

終わり (おしまい)

さて、これを読んでいるあなたは偉大なゲームのどこにいますか?

完